

令和8年度 評価規準

東京都立富士高等学校附属中学校

| | | | | | | | | | |
|----|----|------|----|------|-------|-----|------------|----|----|
| 教科 | 国語 | 履修学年 | 2年 | 指導時間 | 148時間 | 担当者 | 今福 航、山崎 清隆 | 区分 | 必修 |
|----|----|------|----|------|-------|-----|------------|----|----|

| | |
|-------|--|
| 教科の目標 | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して社会生活に必要な国語の特質を理解し適切に使うことができるようにするとともに、人との関わり合いの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養い、言葉の価値を認識して言語感覚を豊かにし、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 |
|-------|--|

| 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
|--|---|--|--|--|
| 内容のまとめ「こと」の評価規準 | 「A 話すこと・聞くこと」 ア 提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする活動 | ・場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。 ・自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。 ・話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。 | ・積極的に場の状況に応じて言葉を選び、学習課題に沿って提案しようとしている。 ・進んで情報の信頼性の確かめ方を理解して使い、学習の見通しをもって主張しようとしている。 | |
| | | ・情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 | ・自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。 ・進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。 ・目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。 ・場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。 ・話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。 | ・粘り強く論理の展開を考え、今までの学習を生かして議論しようとしている。 ・積極的に相手や場に応じた言葉遣いを使い、学習の見通しをもって討議しようとしている。 |
| | 「B 書くこと」 ア 関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く活動 | ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 | ・目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。 ・表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している。 ・文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。 ・目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。 ・論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。 | ・粘り強く自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫し、学習課題に沿って批評する文章を書くようとしている。 ・積極的に情報の信頼性の確かめ方を理解して使い、学習の見通しをもって批評する文章を書くようとしている。 |
| | | ・話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。 ・身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書いている。 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。 | ・文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。 ・目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。 | ・積極的に文章の種類を選択し、学習の見通しをもって新聞にまとめようとしている。 ・進んで効果的に文字を書き、今までの学習を生かして発表のための資料を作成しようとしている。 |
| | 「C 読むこと」 ア 論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討議したり文章にまとめたりする活動 | ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。 ・第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。 ・慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 | ・文章の種類を踏まえて、論理の展開の仕方などを捉えている。 ・文章を批判的に読みながら、文章に表れているもの見方や考え方について考えている。 ・文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価している。 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 | ・粘り強く論理の展開の仕方などを捉え、学習課題に沿って考えたことについて討議しようとしている。 ・積極的に話や文章の種類とその特徴について理解し、今までの学習を生かして考えたことについてレポートにまとめようとしている。 |
| | | ・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。 ・自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。 | ・文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価している。 ・文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えている。 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているもの見方や考え方について考えている。 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 | ・進んで表現の仕方について評価し、学習課題に沿って批評しようとしている。 ・粘り強く時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解し、今までの学習を生かして考えたことを説明しようとしている。 |
| ・情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。 ・話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。 | | ・文章の種類を踏まえて、論理の展開の仕方などを捉えている。 ・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 ・文章を批判的に読みながら、文章に表れているもの見方や考え方について考えている。 | ・積極的に情報の信頼性の確かめ方を使って、今までの学習を生かして読んだ内容について実生活への生かし方を考えようとしている。 ・進んで文章を批判的に読み、学習課題に沿って読んだ内容について実生活への生かし方を考えようとしている。 | |

| | | | |
|-------------|------------------------------|------------------------------|----------------------|
| 主な評価資料 | 授業ノート・学習プリント 単元テスト・定期考査など | 授業ノート・学習プリント・単元テスト 定期考査など | 授業内の様子 リアクションペーパー |
| 評価の割合 | 30% | 40% | 30% |
| 観点別の評価基準 | 観点別学習状況の評価 | | 学習の実現状況 |
| | A | 十分満足できると判断されるもの | 70%以上 |
| | B | おおむね満足できると判断されるもの | 50%以上 70%未満 |
| 5段階 評定基準 | 評定 | | 各評定の範囲 |
| | 5 | 十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの | 80%以上 |
| | 4 | 十分満足できると判断されるもの | 70%以上 80%未満 |
| | 3 | 概ね満足できると判断されるもの | 50%以上 70%未満 |
| | 2 | 努力を要すると判断されるもの | 20%以上 50%未満 |
| 1 | 一層努力を要すると判断されるもの | 20%未満 | |

| | | | | | | | | | |
|----|----|------|----|------|-------|-----|---------------|----|----|
| 教科 | 社会 | 履修学年 | 2年 | 指導時間 | 115時間 | 担当者 | 伊東 森 松浦 大樹 | 区分 | 必修 |
|----|----|------|----|------|-------|-----|---------------|----|----|

| | |
|-------|---|
| 教科の目標 | 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を高める育成することを目指す。 |
|-------|---|

| 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
|----------------|------------|--|--|---|
| 内容のまとまりごとの評価規準 | 日本のさまざまな地域 | ・観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解している。 ・地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成など地理的技能を身に付けている。 | ・地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 |
| | 古代までの日本 | ・世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。 ・日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷(大和政権)による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解している。 ・律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。 ・仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。 | ・古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 |
| | 中世の日本 | ・鎌倉幕府の成立、元寇(モンゴル帝国の襲来)などを基に、武士が台頭して主従の結びつきや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広がったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。 ・南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。 ・農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。 | ・武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 |
| | 近世の日本 | ・ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎がつけられたことを理解している。 ・江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。 ・産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解している。 ・社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。 | ・交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・近世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 |
| | 近代の日本 | ・江戸幕府による開国について、欧米列強によるアジア進出を踏まえて理解させるとともに、尊王攘夷運動や雄藩の登場による政局の変化、江戸幕府滅亡について理解している。 ・明治政府による諸改革から、日本が近代化を確立していった過程を踏まえ、日本の対外関係の特徴や、国会開設を目指した様子を理解している。 | ・欧米における市民革命で掲げられた理念が実現した経緯や、その社会的な影響について理解する。 ・近代化にともなう日本国内におけるナショナリズムの高まりの背景や影響を理解し、表現することができる。 ・我が国の近現代の歴史とそれにかかわる世界の動きに関する様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。 | ・近代の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 |

| | | | |
|--------|-----------------------|-----------------------|--|
| 主な評価資料 | ワークシート、ノート、単元テスト、定期考査 | ワークシート、ノート、単元テスト、定期考査 | 定期考査、ノートやレポート等での記述、授業内での行動観察、自己評価や相互評価 |
|--------|-----------------------|-----------------------|--|

| | | | |
|-------|-----|-----|-----|
| 評価の割合 | 30% | 40% | 30% |
|-------|-----|-----|-----|

| | | | |
|----------|------------|-------------------|-------------|
| 観点別の評価基準 | 観点別学習状況の評価 | | 学習の実現状況 |
| | A | 十分満足できると判断されるもの | 70%以上 |
| | B | おおむね満足できると判断されるもの | 50%以上 70%未満 |
| | C | 努力を要すると判断されるもの | 50%未満 |

| | | | |
|-------------|----|------------------------|-------------|
| 5段階 評定基準 | 評定 | | 各評定の範囲 |
| | 5 | 十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの | 80%以上 |
| | 4 | 十分満足できると判断されるもの | 70%以上 80%未満 |
| | 3 | 概ね満足できると判断されるもの | 50%以上 70%未満 |
| | 2 | 努力を要すると判断されるもの | 20%以上 50%未満 |
| | 1 | 一層努力を要すると判断されるもの | 20%未満 |

| | | | | | | | | | |
|----|----|------|----|------|-------|-----|----------------------------|----|----|
| 教科 | 数学 | 履修学年 | 2年 | 指導時間 | 140時間 | 担当者 | 荻野 駿一、白樫 知樹 西井 彩花、岩崎 桂子 | 区分 | 必修 |
|----|----|------|----|------|-------|-----|----------------------------|----|----|

| | |
|-------|---|
| 教科の目標 | 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。 |
|-------|---|

| 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
|--------------|---------|--|--|--|
| 内容のまとめりの評価規準 | A数と式 | 式を計算および平方根における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身につけ、的確に処理することができる。 | 事象を数学的に表現して考察したり、式を多面的に見たりして事象の考察に活用することができる。 | 式の計算および平方根に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとしている。 |
| | B図形 | 平面図形と数学的な推論、図形の相似についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技術を身につけるようにする。 | 数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力を身につけて具体的な場面で活用することができる。 | 証明のよさを実感して粘り強く考え、図形の合同や図形の相似について学んだことを生活や学習に生かそうしたり、平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善することができる。 |
| | C関数 | <ul style="list-style-type: none"> 関数$y=ax+b$、1次関数について理解している。 事象の中には関数$y=ax+b$として捉えられるものがあることを知っている。 いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 関数$y=ax+b$、1次関数として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見出し、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 関数$y=ax+b$、1次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。 | 関数 $y=ax+b$ 、1次関数のよさを実感して粘り強く考え、関数 $y=ax+b$ 、1次関数について学んだことを生活や学習に生かそうしたり、関数 $y=ax+b$ 、1次関数を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。 |
| | Dデータの活用 | データの分布と確率、標本調査などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技術を身につけるようにする。 | 複数の集団のデータ分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を身につけて具体的な場面で活用することができる。 | データの分布と確率、標本調査などのよさを実感して粘り強く考え、データの分布と確率、標本調査などで学んだことを生活や学習に生かそうしたり、平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善することができる。 |

| | | | |
|--------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 主な評価資料 | 小テスト 定期考査 課題・レポート | 小テスト 定期考査 課題・レポート | 小テスト 定期考査 課題・レポート |
|--------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|

| | | | |
|-------|-----|-----|-----|
| 評価の割合 | 30% | 40% | 30% |
|-------|-----|-----|-----|

| | | | |
|----------|------------|-------------------|-------------|
| 観点別の評価基準 | 観点別学習状況の評価 | | 学習の実現状況 |
| | A | 十分満足できると判断されるもの | 70%以上 |
| | B | おおむね満足できると判断されるもの | 50%以上 70%未満 |
| | C | 努力を要すると判断されるもの | 50%未満 |

| | | | |
|-------------|----|------------------------|-------------|
| 5段階 評価基準 | 評定 | | 各評定の範囲 |
| | 5 | 十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの | 80%以上 |
| | 4 | 十分満足できると判断されるもの | 70%以上 80%未満 |
| | 3 | 概ね満足できると判断されるもの | 50%以上 70%未満 |
| | 2 | 努力を要すると判断されるもの | 20%以上 50%未満 |
| | 1 | 一層努力を要すると判断されるもの | 20%未満 |

令和8年度 評価規準

東京都立富士高等学校附属中学校

| | | | | | | | | | |
|----|----|------|----|------|-------|-----|---------------------------|----|----|
| 教科 | 理科 | 履修学年 | 2年 | 指導時間 | 148時間 | 担当者 | 小笠原 東洋、関 登 塩入 直也、畠中 和人 | 区分 | 必修 |
|----|----|------|----|------|-------|-----|---------------------------|----|----|

| | |
|-------|---|
| 教科の目標 | 自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。 |
|-------|---|

| 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
|-------------------|----------------|---|---|--|
| 内容のまとめ「」の 評価規準 | (1)電流とその利用 | 電流、磁界に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流の働き、静電気、電流と磁界の規則性や関係性を見出して表現している。 | 電流とその利用に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | |
| | (2)化学変化と原子・分子 | 化学変化を原子や分子のモデルと関連付けながら、物質の成り立ち、化学変化、化学変化と物質の質量を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 | 化学変化と原子・分子に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | |
| | (3)生物の体のつくりと働き | 生物の体のつくりと働きとの関係に着目しながら、生物と細胞、植物の体のつくりと働き、動物の体のつくりと働きを理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 | 身近な植物や動物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見出して表現している。 | 生物の体のつくりと働きに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 |
| | (4)気象とその変化 | 気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象観測、天気の変化、日本の気象、自然の恵みと気象災害を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 | 気象とその変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見出して表現している。 | 気象とその変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 |

| | | | |
|--------|--|----------------------------|-----------------------------|
| 主な評価資料 | ワークシート、小テスト 定期考査、パフォーマンステスト 実験レポート | ワークシート、小テスト 定期考査、実験レポート | 提出物、小テスト、定期テスト 学習に取り組む様子 |
| 評価の割合 | 30% | 40% | 30% |

| | | | |
|--------------|------------|-------------------|-------------|
| 観点別の 評価基準 | 観点別学習状況の評価 | | 学習の実現状況 |
| | A | 十分満足できると判断されるもの | 70%以上 |
| | B | おおむね満足できると判断されるもの | 50%以上 70%未満 |
| | C | 努力を要すると判断されるもの | 50%未満 |

| | | | |
|-------------|------------------|------------------------|-------------|
| 5段階 評定基準 | 評定 | | 各評定の範囲 |
| | 5 | 十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの | 80%以上 |
| | 4 | 十分満足できると判断されるもの | 70%以上 80%未満 |
| | 3 | 概ね満足できると判断されるもの | 50%以上 70%未満 |
| | 2 | 努力を要すると判断されるもの | 20%以上 50%未満 |
| 1 | 一層努力を要すると判断されるもの | 20%未満 | |

令和8年度 評価規準

東京都立富士高等学校附属中学校

| | | | | | | | | | |
|----|----|------|----|------|------|-----|------|----|----|
| 教科 | 音楽 | 履修学年 | 2年 | 指導時間 | 35時間 | 担当者 | 秋沢 希 | 区分 | 必修 |
|----|----|------|----|------|------|-----|------|----|----|

| | |
|-------|---|
| 教科の目標 | <ul style="list-style-type: none"> 音楽活動の楽しさを探究することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。 |
|-------|---|

| 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
|----------------|-------|--|--|--|
| 内容のまとめりごとの評価規準 | 歌唱 | <ul style="list-style-type: none"> 曲種に応じた発声で歌唱表現する技能を身に付けている。 言葉の抑揚、アクセント、リズム、語感による特性、濁音・鼻濁音などの表現の仕方気を付けて歌唱表現をする技能を身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> 曲種による時代・地域の特徴や様式の違い、言語や発声の多様性を感じ取っている。 言葉の抑揚、アクセント、リズム、語感による特性、濁音・鼻濁音などの表現の仕方を感じ取って歌唱表現を工夫している。 | <ul style="list-style-type: none"> 曲種による時代・地域の特徴や様式の違い、言語や発声の多様性に関心を持っている。 言葉の抑揚、アクセント、リズム、語感による特性、濁音・鼻濁音などの表現の仕方に関心を持っている。 |
| | 器楽 | <ul style="list-style-type: none"> 楽器の基本的な操作方法や初歩的な演奏方法に気をつけて器楽表現をする技能を身に付けている。 音の特性に気をつけて合奏表現をする技能を身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> 楽器の基本的な操作方法に気づき、初歩的な演奏方法を感じ取って器楽表現を工夫している。 音の特性や奏法を感じ取って表現を工夫している。 | <ul style="list-style-type: none"> 楽器の基本的な操作方法や初歩的な演奏方法に関心を持ち、器楽表現することに意欲的である。 音の特性や奏法に関心を持ち表現することに意欲的である。 |
| | 創作 | <ul style="list-style-type: none"> 音楽の諸要素の働きをイメージと関わらせて創作表現をする技能を身に付けている。 拍子やリズムが生み出す表現効果に気をつけて創作表現をする技能を身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> 音楽の諸要素の働きをイメージと関わらせて感じ取り、創作表現を工夫している。 拍子やリズムが生み出す表現効果を感じ取っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 音楽の諸要素の働きをイメージと関わらせて創作表現をすることに意欲的である。 拍子やリズムが生み出す表現効果に関心を持っている。 |
| | 鑑賞 | <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化を感じ取る技能を身に付けている。 表現要素が生み出す雰囲気や曲想によって、緊張や弛緩、動的や静的、雄大さや繊細さ、安堵感や焦燥感など様々な個人のイメージや感情を引き出す技能を身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化を感じ取っている。 表現要素が生み出す雰囲気や曲想によって、緊張や弛緩、動的や静的、雄大さや繊細さ、安堵感や焦燥感など様々な個人のイメージや感情を感じ取っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化に関心を持ち、意欲的に聴いている。 表現要素が生み出す雰囲気や曲想によって、緊張や弛緩、動的や静的、雄大さや繊細さ、安堵感や焦燥感など様々な個人のイメージや感情が引き出されることに関心を持っている。 |

| | | | |
|--------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 主な評価資料 | ワークシート、実技テスト、定期考査 | ワークシート、実技テスト、定期考査 | ワークシート、実技テスト、定期考査 |
|--------|-------------------|-------------------|-------------------|

| | | | |
|-------|-----|-----|-----|
| 評価の割合 | 30% | 40% | 30% |
|-------|-----|-----|-----|

| | | | |
|----------|------------|-------------------|-------------|
| 観点別の評価基準 | 観点別学習状況の評価 | | 学習の実現状況 |
| | A | 十分満足できると判断されるもの | 70%以上 |
| | B | おおむね満足できると判断されるもの | 50%以上 70%未満 |
| | C | 努力を要すると判断されるもの | 50%未満 |

| | | | |
|---------|----|------------------------|-------------|
| 5段階評価基準 | 評定 | | 各評定の範囲 |
| | 5 | 十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの | 80%以上 |
| | 4 | 十分満足できると判断されるもの | 70%以上 80%未満 |
| | 3 | 概ね満足できると判断されるもの | 50%以上 70%未満 |
| | 2 | 努力を要すると判断されるもの | 20%以上 50%未満 |
| | 1 | 一層努力を要すると判断されるもの | 20%未満 |

令和8年度 評価規準

東京都立富士高等学校附属中学校

| | | | | | | | | | |
|----|----|------|----|------|------|-----|-------|----|----|
| 教科 | 美術 | 履修学年 | 2年 | 指導時間 | 35時間 | 担当者 | 廣瀬 直彦 | 区分 | 必修 |
|----|----|------|----|------|------|-----|-------|----|----|

| | |
|-------|--|
| 教科の目標 | <p>○主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を想像していく意欲と態度を高める。</p> <p>○対象を深く見詰め感じ取る力や想像力をいっそう高め、独自の・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。</p> <p>○美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心を持ち、よさや美しさなどを味わう能力を高める。</p> |
|-------|--|

| 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-----------------|--------------|---|---|
| 内容のまとめ「こと」の評価規準 | シュールレアリスム水彩画 | ①形や色、質感を捉えて構想し、心豊かに表現する。 | ① 材料や用具の生かし方を工夫し、質感や立体感をあらわすことができる。 |
| | 螺鈿細工 | <p>① デザインや工芸などに関心を持ち、感性を働かせ創造活動に主体的に関わろうとする。</p> <p>② 多様なものの見方をもって発想し、心豊かなデザインを創意工夫しようとする。</p> <p>③ 試行錯誤を通して自分らしい表現を創意工夫し創造しようとする。</p> <p>④ 生活を美しく心豊かにする木の魅力に気づく。</p> | <p>① 材料の特性を考え吟味し、表現に生かす。</p> <p>② 表現意図と表現の方法や技法の適否、美しさなどを総合的に考えながら、自分らしく創造的な工夫をして表現する。</p> <p>③ 塗装の種類、技法、効果を理解し、作品を制作できる。</p> |
| | 和風作り | <p>① 色彩や造形物に意欲的な関心を持つ。</p> <p>② 伝えることの楽しさ、大切さを感じ、主体的に学習する。</p> | <p>① 完成した形を想像しデザイン表現ができる。</p> <p>② 素材合った機能や色彩を考え、表現できる。</p> |

| | | | |
|--------|-----------------|-----------------|----------------------|
| 主な評価資料 | 作品、制作過程の様子、定期考査 | 作品、制作過程の様子、定期考査 | 作品、制作過程の様子、授業に取り組む態度 |
|--------|-----------------|-----------------|----------------------|

| | | | |
|-------|-----|-----|-----|
| 評価の割合 | 30% | 40% | 30% |
|-------|-----|-----|-----|

| | | | |
|----------|------------|-------------------|-------------|
| 観点別の評価基準 | 観点別学習状況の評価 | | 学習の実現状況 |
| | A | 十分満足できると判断されるもの | 70%以上 |
| | B | おおむね満足できると判断されるもの | 50%以上 70%未満 |
| | C | 努力を要すると判断されるもの | 50%未満 |

| | | | |
|-------------|----|------------------------|-------------|
| 5段階 評定基準 | 評定 | | 各評定の範囲 |
| | 5 | 十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの | 80%以上 |
| | 4 | 十分満足できると判断されるもの | 70%以上 80%未満 |
| | 3 | 概ね満足できると判断されるもの | 50%以上 70%未満 |
| | 2 | 努力を要すると判断されるもの | 20%以上 50%未満 |
| | 1 | 一層努力を要すると判断されるもの | 20%未満 |

令和8年度 評価規準

東京都立富士高等学校附属中学校

| | | | | | | | | | |
|----|------|------|----|------|-------|-----|--------------------|----|----|
| 教科 | 保健体育 | 履修学年 | 2年 | 指導時間 | 105時間 | 担当者 | 長 明日香、宋 強賢 宮崎暖大 | 区分 | 必修 |
|----|------|------|----|------|-------|-----|--------------------|----|----|

| | |
|-------|---|
| 教科の目標 | 体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 |
|-------|---|

| 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|----------------|---|--|---|
| 内容のまとめとしての評価規準 | 体づくり | ○自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 | ・体づくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする、話合いに参加しようとするなどしたり、健康・安全に気を配ったりしている。 |
| | 器械運動 跳び箱 | ○知識 ・器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 ○技能 ・跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができる。 | ・技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 ・器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどしたり、健康・安全に気を配ったりしている。 |
| | 陸上競技 持久走 | ○知識 ・陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 ○技能 ・長距離走では、ペースを守って走ることができる。 | ・動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 ・陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとする、分担当した役割を果たそうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどしたり、健康・安全に気を配ったりしている。 |
| | 水泳 | ○知識 ・水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 ○技能 ・背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり泳ぐことができる。 ・バタフライでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり泳ぐことができる。 | ・泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 ・水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとする、分担当した役割を果たそうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどしたり、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配ったりしている。 |
| | ダンス | ○知識 ・ダンスの特性や由来、表現の仕方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 ○技能 ・創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方を変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ることができる。 | ・表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 ・ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、交流などの話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとするなどしたり、健康・安全に気を配ったりしている。 |
| | 武道 | ○知識・武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 ○技能 ・なぎなたでは、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの簡易な攻防をすることができる。 | ・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 ・武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとする、分担当した役割を果たそうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどしたり、禁止技を用いないなど健康・安全に気を配ったりしている。 |
| | 球技 | ○知識 ・球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 ○技能 ・ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができる。 ・ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 ・ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができる。 | ・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 ・球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとする、作戦などについての話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどしたり、健康・安全に気を配ったりしている。 |
| | 体育理論 | ○知識 ・運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について理解している。 | ・運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。 ・運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての学習に積極的に取り組もうとしている。 |
| 保健 | ・交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生することを理解している。 ・交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できることを理解している。 ・自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できることを理解している。 ・応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの技能を身に付けている。 | ・傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。 ・傷害の防止についての学習に自主的に取り組もうとしている。 | |

| | | | |
|--------|--|--------------------|-------------------------------------|
| 主な評価資料 | 動きの観察と実技テスト 審判などによる理解度の把握およびワークシート・定期考査 | グループ活動の観察およびワークシート | 相互評価などの活動の観察およびワークシート・授業への出席および参加状況 |
|--------|--|--------------------|-------------------------------------|

| | | | |
|-------|-----|-----|-----|
| 評価の割合 | 30% | 40% | 30% |
|-------|-----|-----|-----|

| | | | |
|----------|------------|-------------------|-------------|
| 観点別の評価基準 | 観点別学習状況の評価 | | 学習の実現状況 |
| | A | 十分満足できると判断されるもの | 70%以上 |
| | B | おおむね満足できると判断されるもの | 50%以上 70%未満 |
| | C | 努力を要すると判断されるもの | 50%未満 |

| | | | |
|-------------|------------------|------------------------|-------------|
| 5段階 評定基準 | 評定 | | 各評定の範囲 |
| | 5 | 十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの | 80%以上 |
| | 4 | 十分満足できると判断されるもの | 70%以上 80%未満 |
| | 3 | 概ね満足できると判断されるもの | 50%以上 70%未満 |
| | 2 | 努力を要すると判断されるもの | 20%以上 50%未満 |
| 1 | 一層努力を要すると判断されるもの | 20%未満 | |

令和8年度 評価規準

東京都立富士高等学校附属中学校

| | | | | | | | | | |
|----|---------------|------|----|------|------|-----|-------|----|----|
| 教科 | 技術・家庭 技術分野 | 履修学年 | 2年 | 指導時間 | 35時間 | 担当者 | 柴下 和嘉 | 区分 | 必修 |
|----|---------------|------|----|------|------|-----|-------|----|----|

| | |
|-------|--|
| 教科の目標 | 技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 |
|-------|--|

| 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
|----------------|---|---|--|---|
| 内容のまとめりごとの評価規準 | エネルギー変換の技術 | 電気、運動、熱の特性等の原理・法則と、エネルギーの変換や伝達等に関する基礎的な技術の仕組み及び保守点検の必要性について理解している。 | エネルギー変換の技術に込められた問題解決の工夫について考えている。 | 主体的にエネルギー変換の技術について考え、理解しようとしている。 |
| | エネルギー変換の技術による問題の解決 | 安全・適切な製作、実装、点検及び調整等ができる技能を身に付けている。 | 問題を見いだして課題を設定し、電気回路又は力学的な機構等を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えている。 | よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりしようとしている。 |
| | 社会の発展とエネルギー変換の技術 | 生活や社会、環境との関わりを踏まえて、エネルギー変換の技術の概念を理解している。 | エネルギー変換の技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考えている。 | よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、エネルギー変換の技術を工夫し創造しようとしている。 |
| | 生活や社会を支える情報の技術 | 情報の表現、記録、計算、通信の特性等の原理・法則と、情報のデジタル化や処理の自動化、システム化、情報セキュリティ等に関する基礎的な技術の仕組み及び情報モラルの必要性について理解している。 | 情報の技術に込められた問題解決の工夫について考えている。 | 主体的に情報の技術について考え、理解しようとしている。 |
| | ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決 | 情報通信ネットワークの構成と、情報を利用するための基本的な仕組みを理解し、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる技能を身に付けている。 | 問題を見いだして課題を設定し、使用するメディアを複合する方法とその効果的な利用方法を構想して情報処理の手順を具体化するとともに、制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えている。 | よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりしようとしている。 |
| | 計測・制御のプログラミングによる問題の解決 | 計測・制御システムの仕組みを理解し、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる技能を身に付けている。 | 問題を見いだして課題を設定し、入出力されるデータの流れを元に計測・制御システムを構想して情報処理の手順を具体化するとともに、制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えている。 | よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりしようとしている。 |
| | 社会の発展と情報の技術 | 生活や社会、環境との関わりを踏まえて、情報の技術の概念を理解している。 | 情報の技術の評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考えている。 | よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、情報の技術を工夫し創造しようとしている。 |

| | | | |
|--------|-----------------------|-----------------------|------------------------|
| 主な評価資料 | 提出物、学習に取り組む様子、定期考査、作品 | 提出物、学習に取り組む様子、定期考査、作品 | 提出物、宿題、学習に取り組む様子、定期考査、 |
|--------|-----------------------|-----------------------|------------------------|

| | | | |
|-------|-----|-----|-----|
| 評価の割合 | 30% | 40% | 30% |
|-------|-----|-----|-----|

| | | | | |
|----------|------------|-------------------|-------------|--|
| 観点別の評価基準 | 観点別学習状況の評価 | | 学習の実現状況 | |
| | A | 十分満足できると判断されるもの | 70%以上 | |
| | B | おおむね満足できると判断されるもの | 50%以上 70%未満 | |
| | C | 努力を要すると判断されるもの | 50%未満 | |

| | | | | |
|-------------|-----|------------------------|-------------|--|
| 5段階 評価基準 | 評 定 | | 各評定の範囲 | |
| | 5 | 十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの | 80%以上 | |
| | 4 | 十分満足できると判断されるもの | 70%以上 80%未満 | |
| | 3 | 概ね満足できると判断されるもの | 50%以上 70%未満 | |
| | 2 | 努力を要すると判断されるもの | 20%以上 50%未満 | |
| | 1 | 一層努力を要すると判断されるもの | 20%未満 | |

令和8年度 評価規準

東京都立富士高等学校附属中学校

| | | | | | | | | | |
|----|---------------|------|----|------|------|-----|-------|----|----|
| 教科 | 技術・家庭 家庭分野 | 履修学年 | 2年 | 指導時間 | 35時間 | 担当者 | 能森 裕子 | 区分 | 必修 |
|----|---------------|------|----|------|------|-----|-------|----|----|

| | |
|-------|---|
| 教科の目標 | 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 |
|-------|---|

| 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|----------------|--------------------|--|---|
| 内容のまとめ「1」の評価規準 | 衣服の選択と手入れ | 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択と手入れについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 |
| | 生活を豊かにするための布を用いた製作 | 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | よりよい生活の実現に向けて、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 |
| | 住居の機能と安全な住まい方 | 家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 |
| | 金銭の管理と購入 | 物資・サービスの購入について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 |
| | 消費者の権利と責任 | 自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | よりよい生活の実現に向けて、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 |
| | 消費生活・環境についての課題と実践 | 自分や家族の消費生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、自分や家族の消費生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や地域などで実践しようとしている。 |

| | | | |
|--------|-----------------------|--------------------|-----------|
| 主な評価資料 | ワークシート、課題レポート、定期考査、実習 | ワークシート、課題レポート、定期考査 | 学習に取り組む様子 |
|--------|-----------------------|--------------------|-----------|

| | | | |
|-------|-----|-----|-----|
| 評価の割合 | 30% | 40% | 30% |
|-------|-----|-----|-----|

| | | | |
|----------|------------|-------------------|-------------|
| 観点別の評価基準 | 観点別学習状況の評価 | | 学習の実現状況 |
| | A | 十分満足できると判断されるもの | 70%以上 |
| | B | おおむね満足できると判断されるもの | 50%以上 70%未満 |
| | C | 努力を要すると判断されるもの | 50%未満 |

| | | | |
|-------------|----|------------------------|-------------|
| 5段階 評定基準 | 評定 | | 各評定の範囲 |
| | 5 | 十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの | 80%以上 |
| | 4 | 十分満足できると判断されるもの | 70%以上 80%未満 |
| | 3 | 概ね満足できると判断されるもの | 50%以上 70%未満 |
| | 2 | 努力を要すると判断されるもの | 20%以上 50%未満 |
| | 1 | 一層努力を要すると判断されるもの | 20%未満 |

| | | | | | | | | | |
|----|----|------|----|------|-------|-----|----------------------------|----|----|
| 教科 | 英語 | 履修学年 | 2年 | 指導時間 | 148時間 | 担当者 | 徳永 裕亜、道廣 恵理 上田 みつ子、南 昭仁 | 区分 | 必修 |
|----|----|------|----|------|-------|-----|----------------------------|----|----|

| | |
|-------|--|
| 教科の目標 | 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、日常的・社会的な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。 |
|-------|--|

| 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
|----------------|------------|---|--|---|
| 内容のまとめりごとの評価規準 | 聞くこと | [知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、はっきりと話された文章等を聞いて、その内容を捉える技能を身につけている。 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題についてははっきりと話される文章を聞いて、必要な情報や概要、要点を捉えている。 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。 |
| | 読むこと | [知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について書かれた短い文章等を読んで、その内容を捉える技能を身につけている。 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について書かれた短い文章を読んで、必要な情報や概要、要点を捉えている。 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的に英語で書かれたことを読もうとしている。 |
| | 話すこと[やり取り] | [知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身につけている。 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合おうとしている。 |
| | 話すこと[発表] | [知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話す技能を身につけている。 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。 |
| | 書くこと | [知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、またはそれらを正確に用いて書く技能を身につけている。 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて書こうとしている。 |

| | | | |
|--------|----------------------|----------------------|-------------------|
| 主な評価資料 | パフォーマンステスト、小テスト、定期考査 | パフォーマンステスト、小テスト、定期考査 | パフォーマンステスト、ワークシート |
|--------|----------------------|----------------------|-------------------|

| | | | |
|-------|-----|-----|-----|
| 評価の割合 | 30% | 40% | 30% |
|-------|-----|-----|-----|

| | | | |
|----------|------------|-------------------|-------------|
| 観点別の評価基準 | 観点別学習状況の評価 | | 学習の実現状況 |
| | A | 十分満足できると判断されるもの | 80%以上 |
| | B | おおむね満足できると判断されるもの | 50%以上 80%未満 |
| | C | 努力を要すると判断されるもの | 50%未満 |

| | | | |
|-------------|----|------------------------|-------------|
| 5段階 評定基準 | 評定 | | 各評定の範囲 |
| | 5 | 十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの | 90%以上 |
| | 4 | 十分満足できると判断されるもの | 80%以上 90%未満 |
| | 3 | 概ね満足できると判断されるもの | 50%以上 80%未満 |
| | 2 | 努力を要すると判断されるもの | 20%以上 50%未満 |
| | 1 | 一層努力を要すると判断されるもの | 20%未満 |